
平成 28 年

11 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

多様な担い手づくり

西濃農林 ■ 全国農業担い手サミット in ぎふ 西濃地域交流会

11月10日～11日に実施された農業担い手サミット in ぎふに際し、西濃地域交流会では「情報交換会」、「新規就農者育成支援フォーラム」、「現地研修会」を行った。

10日夜の「情報交換会」では、地元の農産物や飛騨牛を入れた食事や、各市町・JAのブースで試食を出し、おもてなしを行った。県内外約230名の参加者は、アトラクションを楽しみながら歓談した。

翌11日は、県外参加者117名と農業担い手リーダー組織の会員等が参加した「新規就農者育成フォーラム」が行われ、西濃地域の特徴的な取り組み3事例の発表がなされた。その後、県外参加者は3コースに分かれて現地視察を行い、各視察先では、担当職員が受け入れ農業者と連携し現地対応を行った。農業者、関係機関の協力を得ながら西濃農林事務所を挙げて円滑な運営に取り組み、大きなトラブルなく地域交流会を実施することができた。

今後は、今回の農業担い手サミットで高まった関係者の意識を具体的な形で地域の担い手育成に繋げる活動が必要である。



【情報交換会】



【新規就農者育成フォーラム】



【現地研修会】

揖斐農林 ■ 全国農業担い手サミット in ぎふ 揖斐地域交流会～地域ぐるみで育てよう揖斐の特産～

11月10日に岐阜メモリアルセンターにおいて、全国の意欲ある農業の担い手が一堂に会し、自らの経営改善と地域農業・農村の発展を目指すことを目的に、「第19回全国農業担い手サミット in ぎふ」の全体会が開催された。

その後、揖斐地域では、県外参加者36名を迎え、地元からは指導農業者会や青年農業者会など地域の担い手組織や就農応援隊、県や町、JAなどの関係機関が出席して情報交換会が開催された。歓迎アトラクションとして揖斐郡大野町に伝わる来振りばやし保存会による太鼓演奏に引き続き、揖斐郡農業後継者クラブによる日頃の活動報告や地域紹介を行った。料理は地元特産品を使ったメニューが振舞われ、地域農産加工品の試食や抽選会などによるPRも好評であった。生産者同士の名刺交換も行われ、大変な盛り上がりを見せ、次回の高知県会場での再会を約束しあった。



【歓迎アトラクション】

翌11日は、現地視察を行い、柿の共選場や飛騨美濃特産名人の柿園、道の駅、JA直売所、「飛騨美濃伝統野菜」や「味の箱舟」に登録された特産品「沢あざみ」、茶産地、鳥獣害対策など地域の取り組みについて紹介した。特に、鳥獣害や柿への関心が高く、「カラスの侵入防止ワイヤーの設置方法」や「柿の樹勢管理や防除について」など担当者や柿名人への質問が相次いだ。午後は、揖斐川町谷汲で開催された鳥獣害対策サミットに合流し、岐阜県の鳥獣害対策について説明を受け、ジビエ料理を試食して頂いた。

揖斐農林事務所は、一連の地域交流会の企画運営に携わり、農業普及課では特に後継者クラブの発表や現地視察対応などの支援を行った。



【後継者クラブの活動発表】



【柿共選場視察】



【ジビエサミット】

中濃農林 ■ 全国農業担い手サミットinぎふ 中濃地域交流会

11月10日～11日、岐阜県で「第19回全国農業担い手サミットinぎふ」が開催され、農業普及課は中濃地域実行委員会として、現地研修会を中心に大会運営を支援した。

10日は、岐阜メモリアルセンターで県内外参加者が一同に会する全体会の後、県下10地域に分かれ地域交流会を開催した。中濃地域では、みの観光ホテルで県外参加者と管内の担い手リーダー等が交流し情報交換した。

11日は、県外参加者が2コースに分かれ、トマトポット生産者(株)多治見屋、(有)ふる里農園美の関、Blueberry garden 紫屋などの農業者や農業関連施設、観光施設等を視察した。参加者からは、「自分とは違う経営形態が見られ参考になった」などの意見が聞かれた。

この担い手サミットを契機に今後より一層担い手育成を推進していく。



【現地研修会の様子】

東濃農林 ■ 全国農業担い手サミットinぎふ 東濃地域交流会

11月10日～11日に「第19回全国農業担い手サミットinぎふ」が開催された。東濃地域会場には、全国から80名の方を迎え、情報交換会や現地研修会を通じて、地域農業の取り組みなどを紹介、PRした。

管内からは、情報交換会に若手農業者など40名が参加し、他産地の生産者等と情報交換がなされた。生産、加工に関する工夫や売り方に関する話などが各所で聞かれ、それぞれの活動環境は異なるものの、より良い経営を行いたいという共通の思いが伝わってきた。

また、若手農業者が今後に対する抱負を語ると、拍手とともに暖かく迎えられ、参加者の今後の励みになった。

農業普及課では、今後も地域の特徴を生かした農業経営を進めるとともに、担い手育成に向け支援を行っていく。



【地域の担い手が語る様子】

下呂農林 ■ 全国農業担い手サミットinぎふ 下呂地域交流会

～おもてなしの心で、下呂の農業をアピール～

11月10、11日の2日間、第19回全国農業担い手サミットinぎふが開催された。10日は岐阜市メモリアルセンターでの全体会と、県内10地域での情報交換会、11日は現地研修会が開催された。

下呂市では、県外146人を含む237人が参加し、一連の行事が実施された。10日の情報交換会では歓迎アトラクションの一つとして、下呂地区青年農業士会の11人がアームレスリング（腕相撲）大会を企画し、会場からも参加者を募って一体感のある雰囲気の中で大いに盛り上がった。11日の現地研修会では、下呂市内4コースでの視察の他、新規就農者育成フォーラムを開催し、水稻・野菜・畜産経営の若手農業者6人と益田清風高校が活動事例を発表した。また、昼食には地元食材をふんだんに使った飛騨牛弁当が振る舞われ、銘柄米、トマト、畜産加工品、コーンポタージュスープなどが所狭しと並べられ、参加者は舌鼓を打っていた。

参加者からは「高校生を含めて、若手農家が頑張っている姿に感動した」「どの料理も大変おいしく、満足でした」などの感想が聞かれた。

農業普及課は、下呂地域実行委員会の構成員として、情報交換会や現地研修会の連絡調整及び運営、青年農業士等、農業者の活動支援、農産物や加工品の展示を行った。



【青年農業士による
アームレスリング】



【現地視察（トマト）】



【若手農業者の経営発表】



【高校による
コーンポタージュ試食】



【高校生による企画商品販売】



【高知県への引き継ぎ式】

飛騨農林 ■ 全国農業担い手サミットinぎふ 飛騨地域交流会

～飛騨の農業を全国に発信！～

11月10日（木）～11日（金）に、全国農業担い手サミットinぎふが岐阜市及び県内各地域で開催された。飛騨地域においても、全国から約280名の農業関係者が参加し、1日目の夜は高山市、飛騨市の両市内ホテルにて管内農業者約300名も出席して情報交換会が開催され、地元産の農畜産物をふんだんに使った料理を味わいながら、飛騨めでの紹介など全国各地の農業者との交流が図られた。

2日目は、早朝から新規就農者育成フォーラムが開催され、新規就農者の事例発表や飛騨高山高校生4名の将来目標発表、特色ある新規就農者の育成確保や研修制度の紹介などが行われた。その後飛騨高山高校2年生約80名も全国の農業者とともに参加して交流を図りながら、7コースに分かれて管内の農畜産業、六次産業化の取り組み事例などの現地研修会を開催した。



【情報交換会（高山市）の様子】

今回のサミットを通じて、飛騨地域を代表するトマト、ほうれんそう、飛騨牛などの素晴らしさや、担い手育成の取り組みを全国に発信するとともに、農業普及課では情報交換会、新規就農者育成フォーラム、現地研修会などの開催準備と当日の運営支援、視察先での説明支援などを行った。

農業経営課■飛騨牛 担い手サミットで飛騨牛PR

11月11日（金）担い手サミット in ぎふ2日目、飛騨地域交流会「飛騨牛のルーツを探るコース」では全国から参加した農業者等38名が高山市の飛騨高山高校や飛騨食肉センターの視察を行い農業経営課の革新支援専門員が案内役を務めた。飛騨高山高校では生物生産科の学生2名が繁殖雌牛の改良や雌牛肥育の取り組みについて発表を行い、農協や獣医師等の支援を得て肉質の良い飛騨牛の生産を目指して頑張っている様子が紹介された。現地研修には飛騨高山高校の学生12名が同行したが、昼食時の意見交換では県外の農家から「地域を挙げて後継者を育成している体制が素晴らしい。」「女子学生が自信を持って夢を語る姿に感動した。」等の意見が出された。



【飛騨高山高校生の車内説明】

可茂農林■営農組合法人化支援 新農事組合法人誕生！「(農)みざの」

平成27年度より組織再編の検討を重ねてきた御嵩町美佐野地区は、11月25日に農事組合法人みざの設立総会を開催した。

美佐野地区は、耕作放棄地が1筆もない美しい景観を維持してきたが、永続的な営農を継続するために、任意組織の在り方を検討することとなり、法人化のメリットやデメリットについて協議を重ねてきた。農地中間管理事業や各種補助事業の有効的な活用に向け、法人化への合意形成をはかり、それが実現したことになる。農事組合法人みざのは、今までの機械化営農組合員36名全員が1名もこぼれることなく構成員となった。

農業普及課は関係機関とともに、地域の課題解決と法人経営の支援を行っていく。



【設立総会の様子】

売れるブランドづくり

郡上農林■水稲 第2回郡上おいしい米コンテストを開催

郡上市農業振興協議会では、郡上コシヒカリの更なる食味向上とブランド化をねらい、昨年度に引き続き「郡上おいしい米コンテスト」を開催した。農林事務所農業普及課は農業振興協議会の構成員として、コンテストの企画・立案、食味調査、コンテスト結果の取りまとめを行った。

今回は郡上市内全域の62農家より75点の出品があり食味値や整粒率が特に良好であった、上位4点について決勝大会を11月25日に開催し、出席者37名の食べ比べにより最優秀者を決定した。今年は出品者間の差が少なく接戦となり、試食においても順位づけが大変難しいとの声が聞かれたが、甘みと粘りが優れていた白鳥町六ノ里の稲作農家が最優秀賞を受賞した。

今後、農業普及課では今回の結果を踏まえて次年度の稲作に向けた指導を行い、郡上コシヒカリのブランド化を推進する事としている。



【出席者による試食】

恵那農林■水稲 **新地元産コシヒカリのPR、消費拡大に向けて**

「東美濃産コシヒカリ極良食味米産地確立プロジェクト」（構成員：地元生産者、管内2市、JA、中山間農業研究所中津川支所、農林事務所）では、11月13日に中津川市東美濃ふれあいセンターにおいて開催された「第12回ひがしみの農業祭」において、地元産コシヒカリのPRと米の「食味」に対する理解促進を目的として、「おいしいお米あてクイズ」コーナーを出展した。

クイズは、用意した4種類の米を参加者が試食し、事前に測定した食味値が一番高い米（地元産コシヒカリ）を当てる内容で、200名以上の参加者の中で一番得票数の多かった（一番美味しいと感じた）米は地元産コシヒカリで、他の3種類の得票数を大きく引き離れた結果となり、関係者は地元産コシヒカリの食味の良さについて改めて認識を深めた。

また、会場ステージでは、（農）あびろみ代表、中津川市立坂本小学校栄養教諭、同プロジェクト事務局の農林事務所農業普及課担当者による地元産コシヒカリのPR、食味に関する説明等を行なうフリートークイベントも開催された。

同プロジェクトでは、地元産コシヒカリの極良食味米産地確立に向け、関係機関が一丸となり今後も取り組みを継続する。



【出展コーナーの様子】

住みよい農村づくり

岐阜農林■守口だいこん **小学生が収穫体験**

11月28日、岐阜市鷺山の守口だいこん生産ほ場において、岐阜市立則武小学校、鷺山小学校の3年生児童と教諭約190名が収穫体験に参加した。

これは、飛騨・美濃伝統野菜「守口だいこん」に対する理解を深めてもらうために開催したもので、生産者代表や守口漬加工業者から、守口だいこんの歴史や栽培、加工について説明し、試食も行った。児童からは、予想を上回る質問があり、生産者を困らせる場面もあった。

その後、生産者などの手ほどきで収穫体験を行い、抜き取っただいこんの長さを競い合ったりした。参加した児童からは、「守口だいこんは思ったより長くびっくりした。」「長くて抜くのが大変だった。」などの感想があり、収穫体験を楽しんでいた。

農業普及課は、今回の収穫体験の企画、運営の中心となり、収穫体験の成功に向け支援を行ってきた。今後も、守口だいこんを理解してもらうための収穫体験やPR活動の支援を行っていく予定である。



【収穫体験の様子】